

まちむら発見①

自治会と共に！ 地域資源の活用を！

埼玉県飯能市 はらいちば農楽里食楽里



ジャガイモ販売会で完売したときの記念写真



エコストーブ作成講座の様子

「はらいちば農楽里食楽里」は、埼玉県飯能市の原市場地区で活動する団体です。活動目的に、農業の楽しい里づくり、食べることが楽しい里づくりを掲げ、地域密着で活動しています。活動の主なものは、ペール缶を使った「エコストーブ」の普及活動や、地域野菜のジャガイモの品種を工夫し、販売促進を行っています。また、まちづくり推進委員会で「原市場まちづくり応援大使」に任命した歌手で女優の佐藤康恵さんに協力をお願いし、佐藤さんの写真を使って「じゃがいものらぼう街道」の幟を作るなど、地域のブランド化を積極的に行っています。

1. きっかけは「エコストーブ」

「はらいちば農楽里食楽里」が活動を始めたきっかけは、「エコストーブ」です。自動車整備工場でゴミになっているペール缶を集めて、煙突などと組み合わせるこのストーブは、駿河台大学の平井純子教授の指導によります。地域の資源を資本に代えようという教授の働きかけでこのストーブを導入しました。飯能市は「西川材」で有名な林業地ですが、間伐材等で余っている木っ端がたくさんあります。この木っ端を「エコストーブ」で燃やすと、強い火力が得られて、調理に大変便利であることと、地域の資源を活用できること。また、地域の野菜を販売する際に、調理にはガスが必要でしたが、そうした石油資源を買うことなく、強い火力が得られることから、ガス代が抑えられ、地域で安く野菜を販売することが可能となりました。

2. 災害対策用としてのエコストーブ

こうした活動に地域の自治会では強い関心を持っていただきました。山間地域である原市場地区では、エコストーブがあれば災害時に何もなくとも暖と調理用の火が得られることから、自治会を中心に地域に広まってきました。実際に防災訓練の際に、このエコストーブでご飯

を炊いたり、ジャガイモを温めたり、また、地域のイベントでも調理用に使われており、大変貴重しています。

3. ジャガイモの販路拡大

エコストープによって、ジャガイモを中心とした地域野菜の販売がかなり儲かるものとなったところで、レストランなどから、珍しいジャガイモの生産の依頼を受けました。インカの目覚め、ノーザンルビー、アンデスレッドなど、普段スーパーで買うことのできないジャガイモの生産を始めたところです。

4. 鳥獣被害対策

会では、ジャガイモの生産を進める一方、シカやイノシシ、サルなどの農業被害の報告も増



ジャガイモ宣伝用ののぼり旗

えています。会の有志で狩猟の免許を取った者が捕獲したり、自治会の皆さんと一緒にサルの行動パターンを調べ、追い払いに協力したりしていましたが、もっと効果を上げる対策を講じるため、本格的な調査が必要であると感じていました。自治会長の皆さんと話し合ったところ、自治会でドローンを購入していただき、会でドローンの免許を取り、地域の調査を行うこととなりました。地域の皆さんの力でドローンを使った調査を行うのは、全国でも初のことでした。

5. ドローンの調査結果

1年かけてドローンを使って調査を行ったところ、イノシシ、シカ、サルの生態で分かるものも出てきたところです。特にサルの行動調査については、柚子の木の所在沿いに移動していることが分かり、今後は、地域の柚子の販売に力を入れていく方針です。

6. 地元出身の女優 佐藤康恵さんとの連携

女優の佐藤康恵さんが、地域に協力して頂けることとなり、地域のまちづくり推進委員会で「原市場まちづくり応援大使」に任命しました。彼女の協力で、「じゃがいものらぼう街道」の幟を作成し、地域に彼女の写真とジャガイモの



原市場まちづくり応援大使就任式の様子

文字が溢れています。何かあるごとに双方に協力できる関係として、お互いに気持ちよい関係を築いています。

7. 活動を通じて

会では、エコストープに始まり、様々な活動を行っています。地域をよくしたいとの思いを持った会員で構成されており、地域の資源を地域の皆さんと一緒に適正に資本に変えていくことに尽力しています。今後も広く事業展開していく予定です。

(はらいちば農楽里食楽里事務局長 佐藤好則)